

三ツ子石池（みつごいしいけ）

位置図



諸元

貯水量	381.2 千m ³
満水面積	11.3 ha
受益面積	115 ha
堤高	10.1 m
堤長	476 m

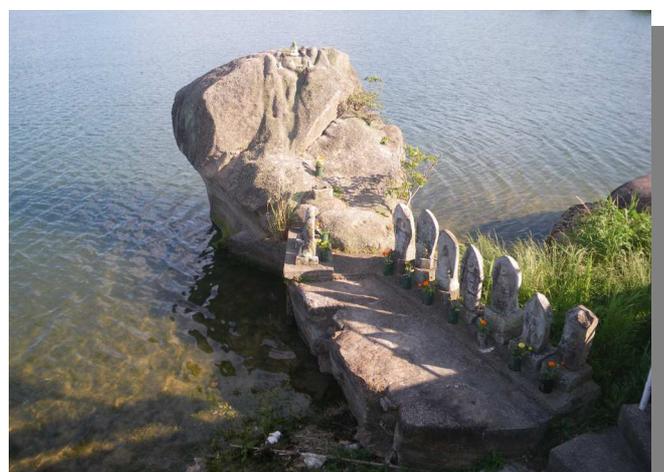
三木町には 788 箇所ものため池があります。三ツ子石池はその中で 6 番目の貯水量を誇る大きなため池です。三木町北西部から高松市方面まで広い範囲を見渡せる三ツ子石池は、受益地への水供給に大変適した場所にあります。しかし、「三ツ子石池の水が 2 杯分あったら」と言われていたように、長い間、水不足に悩まされ、水をめぐる争いもたびたび起こっていました。この状況を解決したのが、昭和 51 年（1976 年）に完成した香川用水から取水を行う揚水施設です。揚水施設は毎年稲作の期間になると 30 数万トンもの用水を池へ送り込みます。いったん貯められた水は下流にある大見池、渡池、西谷池などへ送られ、受益地の水田を潤し続けています。

池の築造は南北朝時代とも室町時代とも言われていますが、定かではありません。改修の歴史も不明な部分が多いですが、昭和 60 年（1985 年）に樋門の改修工事が行われています。その時掘り出されたゆる木や樋門には、すべて頑丈な松材が用いられ、樋の上ぶたには安政 3 年（1856 年）に改修工事が行われたことが記され、樋門の工事に尽力した人々の名前も刻まれていたそうです。

三ツ子石池の特徴は、池の西方に池の中から大きな岩が頭を突き出しているところです。昔、まま子いじめをする母親が三歳の幼児に大きな岩を運ぶよう命じました。これを哀れに思った熊野権現くまのけんげんの加護により、幼児は大きな岩をまま母の言うとおりに池の西方へ運ぶことができました。それ以来、この岩の名前を三ツ子石、池の名前を三ツ子石池というようになったそうです。



三ツ子石池の風景



三ツ子石